

玉置先生講演（録画視聴）を視聴して

演題「令和の日本型教育を踏まえた教頭の在り方」

令和3年4月28日～5月21日実施

各単位教頭会から寄せられた感想をまとめました。

<桑名市・桑名郡教頭会から>

- ・主体的な学び・対話的な学び・深い学びを実現するためのポイントを端的に教えていただき、とても分かりやすかったです。且つ、教頭としてどう助言すべきなのかという点もご教示いただき非常に参考になりました。
- ・最後の「働き方改革は何のためか？」は、年度初めの多忙期にあつて、自身の意識が薄らいでいたことを反省する機会となりました。教頭として、子どもたちのために、先生方の勤務時間をしっかり把握するとともに、思い込み業務や学校行事の見直し等に取り組んでいきたいと思います。
- ・働き方改革の動きに共感します。
- ・コロナ禍で学校活動が再認識されことから始まり、「令和の日本型学校教育」の構築、学習指導要領の着実な実施、GIGA スクール構想の実現、主体的に学習に取り組む態度の評価そして働き方改革と現在の学校が抱えているすべての課題を分かりやすくお話しいただきありがとうございました。
- ・今まで学んできたことの再確認ができ、改めて管理職として進めていくべき職務について考える機会となった。
- ・“わかりやすかった。C4th の会議室機能をもっと知りたい
- ・実は知らない便利な機能があるのではないかなと思ったので、情報あれば知りたい。”
- ・働き方改革への取組例やC4th の活用など、今必要とすることが学べた。
- ・職員にどのような言葉で伝えるといいか何を考えていくといいか具体的な話だったので、参考になりました。
- ・現場実践に大変役立つきっかけとなる話ばかりで参考になりました。
- ・働き方改革には業務を削減することが必要。ICT の積極的活用は業務削減につながると思うが、今は教師が使い方を学ぶために時間が費やされている。過渡期だから仕方ないが、何とか工夫しなければいけない。
- ・大変分かりやすく勉強になりました。時間をあけては必要に応じて再視聴したいです。
- ・参考になりました。

<いなべ市・員弁郡教頭会から>

教頭の在り方を①新学習指導要領②G I G Aスクール構想③働き方改革という 3 つの観点

から学ぶことができました。

- ① の観点では、「エビデンスよりエピソード」職員室でエピソードを語り合いたいと思いました。また、つなぎ・もどす対話については、子どもたちの関係の中で、そして、職員室での教職員の関係の中でも大事にしていきたいと思いました。
- ②の観点では、「心の天気」が参考になり、自分を見つめること、心の変化に目を向けることを大切にしたいと思いました。
- ③の観点では、「頑張っている教師ほど自分で止められない」という言葉が心に残りました。ついつい、遅くまで仕事をしてしまう傾向にありますので、管理職がそれを止められるようにしたいと思いました。止めるための手立てや考え方も示していただきましたので、今後に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

<四日市市小学校教頭会から>

- コロナによる臨時休業で、学校が子どもの健康とつながりの保障をしていることは、自分も実感しました。主体的な学びとは、自己選択させること。対話的な学びは、自己の考えを広げることは、なるほどそう考えるとわかりやすいと思いました。

働き方改革を本校でも取り組んでいます。授業準備を短くする工夫、学校行事業務を短くする工夫は、ぜひ実践したいと思いました。ありがとうございました。(H小)

- コロナ禍があぶりだした学校存在意義が「健康保障＋つながり保障 が学びの保障になる」ということを改めて感じました。だからこそ、現指導要領が目指す子どもたちの学びが、楽しい、もっと学びたいと感ずるため、事例を紹介いただきながら詳しい説明あり・私たちへの問いかけありでとても分かりやすく学べました。教頭として、以下の3点を自校の教職員に伝えていきたいと考えました。

■指導要領にかかわった授業づくりについて

主体的な学びは、授業の中に自己選択させる場面をつくると生まれやすく、また対話的な学びは、「つなぐ」「もどす」を教師がすることで自分の考えを広め深めることができる。つながることができれば、「わからない」と言い合える関係も形成され、悩みを一人で抱え込むようなことを防ぐことにもつながる。

■GIGA スクール構想について

「個別最適化された学び」から、「個別最適な学び」と変わったのは、やはり主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が大切だからである。大切なのは、今までの授業の1場面をコンピュータで置き換えるいわゆる思考ツールである、という認識でどんどん取り組んでいくことである。また、授業の振り返り活動を大切にすることで、子どもたち自身がメタ認知でき、さらなる主体的な学びにつなげていくことができる。その活動に、クラウド上のアプリを使うと、子どもどうしがつながる共有化が容易であったり、教師の業務の効率化にもつなげたりできる。

■働き方改革について

教師が元気でない、子どもの学びのためのいい授業アイデアがわからない。自己研鑽が細る（本を読まない教師）という理解を職場で広める。

学校力を高めるという課題について、具体的にご指導をいただいたと思います。ありがとうございました。（K小）

- 実際に学校現場を経験してみえる先生ということもあり、具体的な例示がありとてもわかりやすく納得がいく講演内容でした。たくさん「キーワード」を示唆していただきましたが、どのように説明をすればよいか考えていたことを理解しやすく教えていただきました。例として「深い学び」とは、「今日の授業で一生覚えておく」と良いことから」という言葉で、なるほどと思い、今後、授業の助言でも活用させていただきたいと思いました。また、「GIGA スクール構想」では「なんでもやってみなはれ やらなわからしまへんで」という言葉で、管理職としてブレーキをかけてしまわずに、アクセル方向で進めていきたいと思いました。「働き方改革」でも、「思い込み業務の廃止」ということで、現任校の学校行事等で精選できることはないか考えるきっかけとなりました。

玉置先生の講演を拝聴して、「玉置研究室」のHPを見せていただいたり、著書も購入しようと思ったりと学習する機会をいただきありがとうございました。録画視聴研修であるため、何度も見返すことができた（各校での研修と記載されていましたが、学校では忙しくて視聴する時間がなく、休日にゆっくり家でメモを取りながら視聴しました。）のでよかったです。ありがとうございました。（S小）

- 令和の日本型学校教育の構築について、とてもわかりやすく、「なるほど」と感じる内容でした。大事なキーワードでまとめられているので、教職員にも周知しやすいです。GIGA スクール構想の学習の取り組みとして、クラウドアプリが四日市市にも導入されると、1年生の児童をはじめ、タブレットを簡単に操作に慣れる手法としてとてもいいなと思います。簡単操作、毎日利用で確実に活用率が100%になると思います。子どもと先生との関係や子ども同士の関係もよくなり学習だけでなく、関係づくりにも効果的です。

（M小）

- 「この授業で、子どもたちが一生覚えておく」といいことは何？」「それが、この教科の見方・考え方なんだよ」というくだりは、ぜひ使って指導にあたりたいと思った。『依存』できないと『孤立』など、今まで使っていた言葉のイメージと違う言葉のイメージがあり、話も分かりやすかったと思う。先生方や子どもたちの学びを止めない、でも、働きすぎは止められるそんな関りができるようになりたいと思いました。（O小）

- コロナ禍で問われる学校とは？という興味ある切り口で公演が始まりました。この課題は学校にとって大きなものであり、学校とは何かという意味や価値を改めて振り返ることができました。

講演の中で一番印象に残った部分は働き方改革でした。多くの場所で課題として出されていることですが、なかなか改善されていかない現実があります。「教師がつかれていては子どものためにならない」「自分が止められない教師を管理職がストップをかける」に

については教頭である自分自身が当てはまるように感じました。私自身が変わらないと、仕事の仕方を変えないと学校が変わっていかないと感じました。(K小)

- コロナ禍、さまざまな制限がありますが、職員にとっても子どもにとっても「安心・安全な学校づくり」のために教頭としてできることをひとつひとつしていききたいと痛感しました。特に職員の健康第一を考え、風通しの良い職場、効率のよい働き方等、学校力の向上を図りながら、組織的に対応できるよう務めていききたいと思います。(S小)

- 幅広い分野から教頭の在り方を学ぶことができました。新学習指導要領が本格的に実施し、主体的に学んでいる姿のイメージがもちにくい教員が多い中、自己決定する場面があるかどうか、真の対話の姿があるか、依存しあえる集団になっているかなど、教頭の立場における指標をしめしていただき、実践していききたいと思いました。私たちの仕事は様々な学習環境を整える事も大きい。教頭同士も対話を深め、情報を密にとり、私たち自身も率先して勤務縮減にも努めたい。(C小)

- 私は、行政におりましたので、予算獲得のため財政からエビデンスを求められることが多々ありました。その考え方が抜けないところがあつたのですが、玉置先生の講義を拝聴して、具体的なエピソードで語ることの大切さに改めて気づくことができました。また、「依存することで自立することを学ぶ」という言葉は、まさにそうだなと共感しました。教師の中にも、子どもが困らないようにと、全部教師が先に段取りしてしまつて、子どもからの発信の機会を奪つてしまつている人がいます。あえて困る機会を与えて、他の誰かを頼つて解決する経験をさせる方が、よほど自立する力を育てると思ひました。学びの多い研修会を行つていただきありがとうございました。(K小)

- 非常にたくさんの示唆をいただいた。特に感銘を受けたのは「対話をつくる」ことである。子どもたちをつなげることで「対話」をつくりだす。やっつていそうでは実は「会話」「雑談」をさせてしまつていた。対話をつくることで、自分の考えが深まつたり、広がつたりすることをしっかりと狙つていかなければならないと思つた。対話がつくられれば、「エビデンスよりエピソード」という子どもの姿が先生方から語られるだろう。「見方・考え方」についても、その学習内容にとらわれてしまうくらいがあつたが、「一生覚えておくという事柄」のように、その授業の中で、生き方に直接的・間接的にかかわることが「見方・考え方」なのだと先生方に伝えたいと思つた。

I C T活用もステップ0こそ重要なのではないかと思つたし、スクールライフノートはI C Tを活用して、子ども掴み(心身ともに)ができる優れたアプリケーションだと感じた。ぜひ四日市でも導入してほしい。(T小)

- ・子どものやる気を引き出す授業とは、教え込みや指示学習ではない。自分で必要な時に調べたり友だちとの情報交換の出来る教室環境・ルールを作つたりしておく。わからないから教えてとS O Sを出す力、友だちに学習を伝えることで自分の学習をより確かなものにするお互いが得をする関係づくり。話し合うことで自分の考えに友だちの考え方も含めた上で自分の考えをより深められるような「つなぎ」「もどす」など教師の役割スキ

ルを身に着けられる研修等などで、授業の在り方を再確認する必要がある。

- ・ICTは、まずは「なれる」という意味で「心の天気」はやってみたいと思った。児童の日常の様子を把握し教育相談にも活かすことができる。

- ・「働き方改革」は個人の問題では片づけられない。時間外勤務を縮減しなさいとの言葉がけでは職員が持たない。コロナ禍で対策に取り組む時間が増えている中、学校としての必要最低限の課題（研修や通信、会議など）は管理職がある程度スクラップしていかないと無理である。学校運営にはあれもこれも必要なことばかりではあるが、その中でも無理無駄のない仕事の管理を真剣に取り組みたいと思う。（H小）

○4月より教頭職に就き、1か月が経ちました。慣れない職場関係、地域、職種。さらに、教育委員会等からの提出書類。分からないことだらけの毎日で、連休を迎えました。今回、この研修を通して、教頭として自分に求められていること、やらなければならないことが少しですが明らかになった気がしています。今回は、「新学習指導要領の着実な実施」

「GIGA スクール構想の実現」「働き方改革の推進」という3つの柱で分かりやすく学ぶことができました。「分からないと言える教室」とともに「分からないと言える職員室」これを作っていくのも教頭としての責務であると感じます。チーム学校として、職種を超えた教職員が参画できる学校こそが機能する学校であると感じました。最後の言葉「機嫌よく仕事をしている人のそばにいと自分も機嫌よく何かをしたくなる」が印象に残っています。

ご講演、どうもありがとうございました。（H小）

○コロナ禍のオンライン授業について

- ・日頃から、ICTを活用した教材提示型の授業を実践したり、教材を準備したりしていくことが必要であると感じた。
- ・長期の臨時休業となった場合、家庭におけるネット環境の問題、また、学校において預かり児童がいる場合、オンライン授業と並行して行っていく上での課題、教師の力量等、まだまだ課題が多いと感じている。

○働き方改革について

- ・玉置先生が言うように、先生が元気でないと子どもも元気がでない。教師が心身ともに元気で授業に臨む必要があると感じた。
- ・教師は、せっかく仕事量が減り生み出した時間を、また、新しい仕事を生み出してしまい、結局、トータルすると仕事量が減らないといったことになってしまうことが多いと思われる。やはり、教師一人ひとりの意識改革が重要であると改めて感じた。（K小）

<四日市市中学校教頭会から>

- ・今の時代における教頭としての在り方や考え方を詳しく解説していただきありがとうございました。

＜鈴鹿市教頭会から＞

C4th をもっと活用すると、勤務時間短縮につながるのかな・・・？というのが、感想です。現在のコロナ禍の中、学校は子どもたちの大切な居場所であり、これまで取り組んできたことを、改めて見直す機会となっている。この研修講座で、コミュニケーションの必要性や主体的で対話的な学びについての教師の役割などについて学び、今後自校で進めていかなければならない。また、現在取り組んでいる I C T の研修と活用をさらに積極的に進めていこうと考えた。

これからの時代、校務支援システム、ペーパーレス、教員の働き方改革がますます必要になると感じました。

体を壊さないように、教頭職もやっていきたいと思いました。

動画では、具体例がたくさんあり、大変参考になりました。

特に、働き方改革については参考になりました。

元教員の玉置先生のお話は現場に合ったお話で、国の施策について、簡単に一言で表していただき、納得がいくお話でした。特に、深い学びの「見方、考え方を身に着け、社会に生かす」の中にある見方、考え方とは、「今日の授業で一生覚えておくといよいことがら」とまとめられていたところがすばらしいと思いました。

働き方改革では、玉置先生の決断のように P T A 新聞をなくすとか思い切った削減が必要だと感じました。なくてもどうにかなるものを精査していきたいです。また、私も上機嫌に仕事ができるようになり、職場を楽しいムードにしていきたいです。

具体的な取り組み方や指導方法を教えていただき、参考になりました。

新型コロナ、ギガスクール、新指導要領など大きく意識を変えるために労力はあるけれど、講師先生の、「「子どものため」という大義名分で教師が疲弊しては、子どものためにならない」、という言葉に改めて 1 か月たった職場を見つめてみました。先生のおっしゃるように、働き方改革を伝えているけれど、改革をする意味が伝わっていないという現状を省みながら、具体的な策を示して進めていきたいと感じました。また、教室の 3 つの層の子ども達という視点を授業者は意識し、対話的な学びのためには「異質な集団」での交流が大切という設定を職場に還流していきたいと思いました。

新型コロナウイルス感染症が対話的な学びを阻害していることは否めない。だからといって手をこまねいていると、子ども達のつながりが薄れ、子ども達を自死へと追いやることに非常に危機感を覚えた。その状況下でも対話ができるためにどう工夫するかを考え続けていかなければならないと感じた。

働き方改革について、学校教育に携わる全ての人が長時間労働により疲弊している。必ず行わなければならない業務量があまりにも多く、大切な子どもとのつながる時間が奪われている。教育関係全般にわたって抜本的な改革が必要に感じる。まず、私ができることとして、そのことを少しでも改革していくために、さらに学校行事や業務を見直し、教職員の負担をできる限り軽減していきたい。特に、働き方改革の項目に関心をもちました。具体的な

例として、連絡黒板の活用や、職員会議のペーパーレス化等が参考になりました。

働き方改革のパートが特に印象に残った。時間外勤務の話で、「このように言う職員にどう対応しますか」という部分は、深く考えさせられた。

「主体的」で「対話的」な「深い学び」のキーワードそれぞれを端的に表現されていて、それがとても分かりやすいと感じました。また、それぞれに具体例があり、現場での実践ですぐに活用できそうな気がしました。さらに、先生の動画を見た後、元気になれるエネルギーを得ることができました。ありがとうございました。

講師の玉置先生はC4thの開発に初期から関わって見ると知って驚きました。これまでと比較して、通知表作成や要録作成など、統合化されることにより、結構先生たちの負担は軽減されたのではないかと思います。同時に、ITにより効率化されるにつれて、玉置先生のいう「つながり保障機能」「健康保障機能」の視点もより大事になってくるだろうと感じました。一方、講師先生が現場で勤務された学校の情報機器関係の実際の配備状況も見てみたいなああと、興味をいただきました。

鈴鹿市に配備されたChromebookを使った校務系からのC4th運用では、突然のフリーズ等の不具合もしばしば起こり、C4thを使つての職員会議ペーパーレスは、課題も多いのではないかと感じています。（したがって本校では、ChromeOSで動く、学習系からのGoogleclassroomを使って、紙面とデジタルのハイブリッドでの職員会議運営を考えています。）違ってるかもしれませんが、小牧市に配備された情報機器環境と鈴鹿市に配備された情報機器環境とでは、もしかしたら、違いもけっこうあるかもしれないと、感じました。

新しい学習指導要領の実施について、働き方改革について、GIGAスクールでの児童一人1台端末の活用について理解が深まりました。

先生方の授業力向上や一人1台端末の活用に向けて、伝えるべきことは伝えていくときの参考になりました。

共感できる内容が多く大変勉強になりました。新しい指導要領や働き方改革など、本質の部分をしっかりと職員に伝えなければならないと強く感じました。

とてもわかりやすい話で、よかったです。教諭の方も見てもらいたい内容でした。「心の天気」は早速、情報担当とやってみようかと話をしました。

勤務時間が長時間化している教員は、小学校では、「授業準備」「学校行事」「成績処理」に時間をとられているとの結果を提示していただいた。本校においても、教員が子どもに向き合うための時間を確保する上でも、大切な結果と思いました。本校では、まずは会議の効率化とMY定時退校日を設定するところから始めている。さっそく会議については、 unnecessary 説明を省き、議論することに重きをおくことを大切にしたら結果、時間短縮が図られ始めている。MY定時退校日については、まだまだ教職員に浸透はしていないが、協力する教員が増えてきた。最後になりますが、今回の研修によって、学校の意義を再確認できました。元気をいただきました。ありがとうございました。

授業の中で、主体的な学びをさせるには自己選択をさせる場面を作るところは授

業をする先生方に伝えていきたい。また、授業を参観する際には、今日の授業で一生覚えておくといふ事柄とは何かが分かる授業になっているかをみていきたい。働き方改革のところで、「自分でストップをかけられない」だから管理職が止めるというところが心に残りました。45時間という指標があるが、4月の教頭の仕事量からすると守ることはできないと思いました。自分は残業をしていて、職員に早く帰るようには言えないと思いました。4月の教頭の仕事量を減らしてほしいです。

<津市北地区教頭会から>

- ・働き方改革に関わって、「時間をかけていることを評価していないか」という先生からの問いかけについて、考えさせられるところがありました。自分自身、どちらかというと、時間をかけて仕事をするタイプなので、根本的に考え方を変えていく必要があると感じました。
- ・会議のペーパーレス化については、昨年度より取り組んでおり、ある程度成果が上がっていますが、「学校力向上」「思い込み業務の廃止」などのキーワードについても教えていただいたので、今後さらに他のいろいろな分野についても働き方の工夫を進めていきたいと思います。
- ・新型肺炎の影響を大きく受け、学校教育の本質を考えさせられる今日、改めて「令和の日本型学校教育」という表現を聞き、大きくシフトしていることを再認識しているところです。「教育振興基本計画」「働き方改革」「GIGA構想の実現」「新学習指導要領の着実な実践」について改めて学習する機会を持つことができ、多岐にわたる業務のマネジメントの必要性を強く受け止めました。教頭職として、教職員が目指す方向性にブレが生じないように、授業の参観や分掌会議の定期的な開催などを通して、教育実践の実態把握に努めるとともに、教育・授業改革の着実に推進したいと考えているところです。
- ・経験談や他校の実践等を踏まえての内容でしたので、具体的に分かりやすく、とても参考になりました。働き改革についてですが、現場の先生方は日々遅くまで勤務して頂いています。本校は職員数も少なく、一人当たりの校務分掌も多いと思います。4月は、特に指導計画などの提案や学級経営など、やることがたくさんありました。そんな中、どんなアドバイスをし、スムーズに仕事をしてもらい、過重労働を減らしていけばよいか、教頭として悩むところです。本研修でも、たくさんのヒントを与えていただきましたので、これから、少しでも工夫し、働き方改革に取り組んでいきたいと思います。
- ・学校という場が、いかに子どもや保護者にとって必要不可欠であるかを改めて自分に落とし込んでいただけた。「学力保障」という当たり前のことだけでなく「関係保障」「健康保障」について学校教育として変わらない本質を丁寧に学んでいくことができ、日々の教育に直結させていきたい。保護者にとっても学校は大事な「関係保障」の場であることを痛感しているまた、若い教員がGIGAスクール構想について引っ張ってくれている現状から、担当教員が進めていきやすいように環境を整える（管理職として常に新しい情報を

提供することや研修のあり方を整える）ことにも心掛けていきたいと思っている。

- ・「令和の日本型学校教育」の3つの柱について、分かりやすく教えていただきました。
主体的・対話的・深い学び」の根幹には相手を思いやりつなかり合う人間関係があることも改めて考えることができました。また、教師の働き方改革がやっと取りざたされるようになりましたが、現実的にはまだまだ難しいです。先生の校務情報化の取組のお話を聞き、「連絡掲示板」「職員会議のペーパーレス化」に興味を持ちました。学校が当たり前に行っていることは、実は遅れているということに気づけない「閉鎖的な学校組織」を感じますが、何か一つでもできることはないか考えてみたいと思います。ありがとうございました。
- ・教室は社会の縮図であり、教室の中でつながりあい、学びあうことが社会に出てからの生きる力になると思い昨年度まで実践してきたことが間違いではないとわかりました。ICT活用に関しても、管理職が躊躇してはいけなないと反省させられました。
- ・令和の日本型学校教育の構築を目指して、3つの視点、取り組むべき方向性について、わかりやすく説明されていた。特に働き方改革については、もっと職員にその意味を伝えるように目的や効果を伝えていく工夫をしようと思いました。現場の職員の日々の様子を見ると、その頑張りに対して応援する気持ちでいっぱいではあるが、時には、校長とともに大きな決断も必要であることがわかりました。ありがとうございました。

<津市中地区教頭会から>

- ・学んだことを一つでも行動に変えたいです。
- ・これからにつなげていければと思います。
- ・「主体的・対話的で深い学び」「GIGA スクール構想」「働き方改革」など、今日の課題について参考になる視点がたくさんありました。ありがとうございました。
- ・「機嫌よく働く」という言葉が心に残りました。
- ・学んだことを一つでも行動に変えたいです。まずは毎日上機嫌。
- ・今後職場でも伝えていきたいと思います。
- ・先生方にもお伝えしたい価値のある内容がたくさんありました。
- ・自分に指を向けて、何ができるかを考えるよう努めたいと思います。
- ・大変勉強になりました。自分の課題は、今回の内容をいかに職場に広めていくかだと感じました。「伝える」ではなく「伝わる」方法を考えていきます。
- ・これからの学校のあり方を考える上で参考になりました。ただ、職員の意識変革が必須条件だとも思いました。
- ・限られた時間をどのように有効に使うかが大きな課題ですが、「思い込み業務」の見直し等、実践に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・様々な方のご意見や考え方、取り組みを知ることで、改めて、自分自身もいろいろ考えることができました。今後の取り組みにつなげたいと思います。
- ・参考になりましたが、理想と現実の差をどのように埋めるか、悩みどころです。

- ・働きやすい職場づくりの参考になりました。
- ・働き方改革のヒントが多くあり、参考になりました。

<松阪市教頭会から>

- ・新型コロナウイルス感染拡大予防対策として、GIGA スクール構想が予定より早く整備されたことにより、教職員も ICT 機器の活用に必要な性を感じている。また、新学習指導要領の施行開始も伴い、教職員の授業改善意識も向上している中、私たち管理職のリーダーシップ力がとても重要な役割を示している。今後も、各授業を積極的に参観し、教職員とともによりよい学校づくりを目指したい。ありがとうございました。
- ・「対話」や「見方・考え方」等、簡単な言葉と分かりやすい例を示していただいたのも参考になりました。校内研修等での助言として、参考にさせていただきます。
- ・働き方改革については、現場の現状を見ると大変難しい部分があり、管理職として進めていく中で、少し心が折れかけている自分がいます。今回の動画を見て、再度前向きに取り組む元気をいただきました。
- ・働き方改革と校務情報化について、自分自身が大きく遅れています。詳しい職員（本校では若手を中心）の力を得て、取組を進めたいと思います。

<多気郡教頭会から>

◆新学習指導要領関連について

- 私自身、教師になる前は一般企業に勤めており、成績はすべて売上という数値で評価され分かりやすかった。学校現場は数値に表せないことが多く「主体的・対話的・深い学び」の変容はエピソードで語るところに共感できた。
- 各教科の「見方・考え方」について、今日の授業で一生覚えておくという事柄という捉え方は、腑に落ちました。
- 「わからない」ときに他者に依存する力をもつことは大切だという言葉が耳に残った。困ったときに助けてと言える子どもを育てる。だからこそ対話ができる子どもを育てなければならない。社会に出たら 1 人では生きていけない。学校時代に他の人とつながっていく力をつける。どんどん依存していい。子どもと子どもをつなぐ教師でなければいけないことがよくわかった。
- 社会でもやらないことは学校でもやらない方がいいということは、私も同感である。
- 新学習指導要領の着実な実施という点では、教師が指示ばかりしていないか、自己選択させる場面を取り入れているかなど主体的な学びに関する視点や、対話的な学びでは、意見をもどして対話をつないでいくこと、学びの共同体を確立する重要性、深い学びについては、教科の内容を生かして、見方・考え方が働かせられているかということ（見方考え方

とは、今日の授業で一生覚えておくといふ事柄) がわかりました。

- コロナ渦において、改めてコミュニケーションの大切さや「学びの保障」について、教職員の役割の大きさを感じました。
- 生徒と生徒、生徒と教師、教師と教師のつながりが、主体的な・対話的な・深い学びへとつながる根源であると再認識しました。つなぐことの手立てをさらに深めたい。
- 子どもと子どもをつなぐことにおいて、授業を参観したとき、指導者が子どもの発言を「どう?」どうして?」と発問し、意見をつなげる場面を見かける。対話によってつながると授業が深まり、子ども自身が新しい発見や学びを感じているように思う。これは、職員間の対話でも同じことがいえる。先生方の想いや考えを引き出せるように声をかけていきたいと思う。
- つながりの弱い子どもには、こだわりが強く、友だちと関わるのが苦手、社会に順応しにくいだろうと予想される子どもがいる。保護者とも話をするが、なかなか理解を得ることができない。休み時間の子どもの姿を見ているとそのままでよいと言ってあげたいが、これから先の社会を考えると通用しないだろうと思ってしまう。担任も周囲も先を考えてついつい口数が多くなる。どんな小さなことでもいいので、自分でやり遂げる、努力する力をつけたい。その子について共通理解をし、関わり方をともに考える姿勢をもっていたい。
- 「新学習指導要領の実施」の中で、日々、児童生徒に「主体的に選択させること」は、予想困難な未来を生きる子どもたちにとって、必須の事柄です。もちろん、「主体的に選択させること」によって、考え方の違いが生じることは予測できます。この違いこそが、対話を生む力となり得るのだと知りました。お互いの考えの違いを認め、理解し、「自身の考えを広げ深める」ことで、対話的な学びは実現します。その中で教師は、子どもと子どもをつないでいくことが大切です。『つなぐ』,そして『もどす』ことで、対話をつくっていく」という先生のお話は非常に印象的でした。また、「深い学び」とは、「ものの見方・考え方」を身につけることであると再確認できました。「今日の授業で一生覚えておくといふこと」という表現がありました。これは、児童生徒の学びが一般化、汎用化されていくことであり、その力を育成していくことが教師の役目だと思いました。

◆ G I G A スクール構想関連について

- 子どもの心の天気を確認できるアプリは有効だと思い本校でも活用したいと思います。
- タブレットを導入して、子どもたちがよいかたちに変化したというのが最高の使い方だと思えるが、この動画で紹介されていた「スクールライフノート」は見えないものを見える化したすばらしいソフトだと感じた。タブレットの有効活用はこれからの課題だと考えられるが、子どもたちにも教師にも WinWin のものにしていかなければいけないと感じた。

- GIGAスクール構想とは、ICTを活用し、個別最適な学びの環境を自らで創っていくことだと理解しました。まずは、教師が楽しみ、その良さを確認することやとりあえずやってみてわかったことを広めていける同僚性（学び合う集団づくり）が大切であると感じました。本校でも若手の教員がロイロノートを、授業の中で有効的に活用していたり、学校行事のふりかえりをタブレットで児童に共有させるなど様々な取組があります。こうしたアイデアや方法を共有し、学校全体に積極的に取り入れられる環境を整えていきたいと考えます。まずは、若手職員の協力を得て、タブレットを活用し職員会議のペーパーレス化に取り組んでいきます。
- コロナ禍、GIGA スクール構想…と、昨今学校が直面している課題について、漠然と捉えているだけでは見逃してしまいそうなもの、しっかりと中心に据えておきたい核のようなものを、具体的な分かりやすい言葉でお話いただき、興味深く視聴させていただきました。
- GIGA スクール構想に関して、“管理職が端末の活用を止めないで”という文科省の発信について、確かにそうなる恐れがあると考えさせられた。別の研修でも聞いた言葉であるが、教師がコントロールしようとするあまり子どもたちの自発的なICTの活用を妨げているのか、という観点が必要だと感じている。もちろん、ただ端末に触らせるだけではねらいもなくも効果も半減するとの見方もわかるが、教師の学習のねらいにのった活動と、子どもたちの自由度の高い操作時間との双方の融合が必要だろう。
- GIGA スクール構想の実現について考えたいと思います。「GIGA スクール構想の実現」によって、個別最適な学びをつくっていくことが大切です。「校務支援システムの活用」をはじめ「校務の情報化」で学校は変わるのだと確信しました。その実現のために教職員が十分に学べる環境を教頭としてつくっていきたいと思います。そして、特に次のことを私自身も参考にして取り組んでみたいと思いました。「研修が終わったら、今回の学びや感想をクラウド上に書き込み交流する」ということです。つまり、「学び合える職員集団」をつくっていくことです。これは研修に限らず、自身の行動や態度を振り返り、把握させることになります。
- 教職員の自身の「メタ認知」だと言えます。その中で、あらためて、働き方改革の本当の意味を伝えていきたいと思います。授業の準備、学校行事、成績処等の中で、多忙になっていないだろうか等、客観的な視点をもち、工夫していくことが大切です。メンターとメンティーの関係性を活用し、新たな手立てを考えていくことも可能です。そして、一人ひとりが自身の授業パターンを構築できるように、研修担当を中心に組織的に働きかけていきたいと思いました。

◆働き方改革関連について

- 勤務する学校によって学内勤務時間の様相が違うことは肝に銘じたいと思います。教職員が心身とも健康に勤務できるよう、より一層働き方改革を進めていきます。
- 教職員への負担が増す中、職員間のコミュニケーションや関わりを確保しながら、職員が

働きやすい職場になるような考え（ペーパーレス、会議の効率化など）を実践していきたい。また、本校には子どもの姿を語り合い、情報を共有しあう環境がある。職員数の協力的体制もできている。子どもたちがそうであるように、教職員も良好なコミュニケーションが図れていることは、やる気に満ち、共に学び合い、共に高まり合える集団となれる。そんな職員室の中心となっていきたいと思った。

- 4月に本校に赴任し、1か月の中でも本校ではまだまだ働き方の意識改革を進めることが課題だと感じた。子どものことを思うことは忘れてはいけないが、まずは自分のために、これからの教師のためにも今働き方を変えようという意識は浸透させたいと感じた。そのためには、その仕事の重要性、今かどうかの優先性を話し合い納得してもらわないといけない。学校には、様々な先生方やスタッフ、そして学校に関わる関係機関がある。よいコミュニケーションをとり、学び合い、協力し合あえる同僚性を育むことが、大切で、それらをつなぐ教頭の役割を自覚して職務にあたっていきたいと思う。
- 本校でも、長時間労働者は固定化しており、どうすれば時間外労働を減らせるかと試行錯誤しています。校時の見直しや部活動休養日の徹底など、いくつかの改善をはかりましたが、時間外労働を減らせる人はいつそう減らすことができ、長時間労働の人は少しも変わらないという年度初めとなりました。個人の研鑽（本を読む）時間が不足していることがあきらかです。よりよい授業や生徒指導を行うためにも、自己研鑽の時間が大切であることに目が向くよう、引き続き、心に届く声かけを模索し、働きかけていきたいと考えます。
- 本校は、職員が自分で仕事内容を精査してできるだけ早めに帰るようにしている様子がうかがえる。さらに効果的に時間を配分できるように、今回学びを提案していきたい。特に、学校行事、会議のパターン、掲示板の利用、ネットワークの活用マイ授業パターン作りを提案できるようにしたい。
- 後半の先生の話で“働き方改革”の一助ともなるという点が、とても共感できた。先生のように校務支援ソフトの開発に携わるようなものではないが、自分もICTを駆使した業務改善ができればと常日頃から考えている。例えば自分のキャリアの中で作ってきた簡単な表計算ファイルも、教員の多忙化解消に役立てばと紹介している。勉強不足であるし、大した機能もないものばかりだが、少しでも職場の教員の事務効率化が図ることができればと思い、自分にできることの範囲で今後もやっていきたいと思う。
- 昨今、働き方改革が進められている。教師の思いとして、「子どもたちのために・・・。」と考えるのはよくわかる。ただ、教師自身が疲れ切ってしまい、余裕なく子どもたちに接することが、本当に子どもたちのためだと言えるのだろうか。むしろ子どもたちのためだからこそ教師側に余裕がないと、本当の力が発揮できないように感じる。ただ、早く帰るように伝えるだけでなく、早く帰れるようになる方法を見つける必要がある。授業準備の時間を減らすための工夫、子ども同士のトラブルが複雑にならないようにする教師同士のつながり、また、行事の精選など、何が自分の学校で必要なのか見つけていくことが大切だと考える。一人一人の職員が、安心して仕事に取り組めるよう管理職として進めてい

きたい。

◆教頭として・この研修動画を視聴して

- 少し疲弊していた私に元気を与えていただいた動画だった。本当にありがたかった。
- 教頭としてどうあるべきかということを改めて考える機会となりました。
- 今までの概念にとらわれることなく、新しい考えや方向性を示していくことが管理職に求められていると思いました。
- 特に若い世代を育てることが教育現場での重要な課題であるが、新学習指導要領の実施については、学びの共同体を研究実践したときもあり、講師先生のお話とこれまでの自分の実践や得、感じた経験と結びつき、助言する立場になったときの自信となったので、若い世代の助言に自分の経験をいかしていきたいと思う。
- 「エピソードを語り合う」ということです。教頭として現任校に着任して2年目になりますが、教員時代との違いにものたりなさを感じていました。「何が違うのか。若い教職員が多いからか」と何という部分に思い至っていませんでしたが、職員室内で「エピソードを語り合う」ことが圧倒的に不足していると認識しました。自分の授業で見る生徒の姿、休み時間や掃除の時間などに見る生徒の姿などを、自分自身も積極的に職員室の話題にしていくことが大切だとあらためて振り返ることができました。
- 包容力がありフランクで語りかけるような口調の中で、心に残る大事なことを明確に伝えていただきました。「依存できる人は必ず自立できる。依存できない人は孤立する」「対話とは」「見方・考え方とは」等、霽が晴れるようで、実際に活かそうなお話が多くありました。この研修を受講させていただいたことに感謝いたします。
- お互いが依存しあいながら、チームとしての学校運営を築き上げたいと思いました。
- 玉置 崇先生のお話を拝聴し、コロナ禍においてあらためて「学校のあるべき姿」を考えることが重要であると感じました。「働き方改革」にもつながる課題ですが、学校経営計画や学校教育計画を具現化するために真に必要なことは何かを取捨選択をする時期が来ているのだと感じました。例えば、玉置先生が言及してみえた「新学習指導要領の実施」，「GIGA スクール構想の実現」は、重点課題です。
- チーム学校としての力を十分に発揮していくためには、同僚性を高めることが大切であると再確認できた研修でした。教頭として、教職員一人ひとりをつなげていけるように、日々努力していきたいです。玉置 崇先生、この度は貴重なお話をありがとうございました。
- 教頭として、どのような子どもに育てたいのか、どのような指導をしていくのか、子どもや保護者の求めていることは何なのかなど、自分の経験や学んできたことを伝えていくだけでなく、今の子どもたちに合った方法を他の先生方とともに考えていきたいと考えている。そのためにも、子どもたちの普段の様子をつかんだり、他の教員がどんなことをしていきたいのかを把握したりしながら、学校全体が成長していける方法を見つけていきたい。また、教師自身が楽しんで授業に臨んでいけるように、授業や学級経営のやり方をアドバイスしていければと考えている。

<度会郡教頭会から>

コロナ禍によるあぶり出しによって、これまでの教育活動のあり方を根本から見直すきっかけになっています。

主体的、対話的な学びのために教頭として職員に何を伝えるべきかを改めて考えるきっかけとなりました。

ご講演の中にありました「社会でやらないことは、学校でもやらない」のお言葉に共感しました。

GIGA スクール構想を実践している途中ですが、ICT の上手な使い方によって、働き方改革、充実した学習活動につながることははっきりとわかります。業務の精選も大切ですが、効率よく仕事ができるツールを増やしていくことが大切だと思っています。

ありがとうございました。

玉置先生のお話を聞かせていただいた中で、大切にしていきたい言葉がたくさんありました。その中から特に次の2つが心に残りました。

1つめは、「教師が子どもと子どもをつなぐことが大切」です。本校の研修でも、6年間を見通して高学年に行くにつれて教師の出場を少なくしていき、子どもたちに任せるべきところは任せるようにしています。特に6年生では、仲間同士で意見を言ったり、認めあったりする場面を多くとっています。そのときに、子どもと子どもをつないでいくことこそが大切であり、対話につなげていきたいと考えています。

2つめは、『『分からない』と依存する力を持つことが大切』です。先ほどの子どもたちに任せたい場面こそ、分からない時にはしっかり「分からない」と発言し、仲間同士で助け合っていくことが大切です。本校では、よい意味でのおせっかいが学校全体のよさにもつながると考え活動しています。誰かが「分からない」と言うことで、誰かが自主的に動き「おせっかい」をする。そうすることで、すべての子どもたちが自分から動くことにつながっていきます。

<鳥羽市教頭会から>

主体的、対話的、深い学びの視点からの学習過程の改善、GIGA スクール構想を実現していくには、教職員が研修し、学んだり準備したりする必要があると痛感しました。その時間と心のゆとりを生み出すためにも、教頭としてできることを着実に実践し働き方改革を早急に進めていきたいと改めて考えることができました。

スクールサポートスタッフの有効な活用を教職員に呼びかけてマネジメントしたり、授業作りや職員同士の協力体制を整えたりすることについて助言したりしていきたいと考えています。

教頭として、元気のある健康的な職場・学ぶ意欲のある職場をつくっていくことは、健康で意欲のある子どもの育成につながると考えることができました。3回視聴しました。「対話的で主体的な深い学び」のところはとても分かりやすく、校内研修会でもその部分だけみんなで視聴し、共通のイメージがもてました。もっと他にも、玉置先生のお

話を聞きたいです。ありがとうございました。

今年度から、勤務校では算数科を中心として仲間とともに学び合い高め合える子どもの育成をめざしていきます。玉置先生のお話を聞かせていただき、ぜひ本校の研究に、日々の教育活動に生かしていきたいという前向きな気持ちにさせていただきました。子どもの事実を語り合える職員集団を目指していきたいと思いました。ありがとうございました。

3つの柱での講習は、今の学校の現場の実態に即した大変学びの多い内容でした。

その3つについての学びは、

①学力「主体的・対話的で深い学び」に関わっての部分では自己選択をさせることが主体的な学びにつながることで異質な集団で交流することで対話的な学びになること
「今日の授業で一生覚えておくの良いことがらは何？」と問うことで深い学びへということを学びました。

②GIGA スクール構想の実現の部分ではスクールライフノートを取り入れてみたいと思ったし、主体的に学習にとりくむ態度の評価として、ふり返りの重要性を改めて感じることができました。

③働き方改革では、がんばっている先生こそ、自分で自分をストップできないからこそ、管理職がストップ役になるということが、強く意識づけられました。また、校務の情報化をさらに進めなければとも思いました。

玉置先生の講演は、一昨年の中央研修で一度拝聴して、大変勉強になったと記憶しています。

今回の講演（講義）も、玉置先生の現役時代の豊富な経験の上に基づく、納得のいく理論であったように思いました。コロナをどう乗り切るか、現場の教師たちをどうサポートするか、教頭の使命としてやらなくてはいけないことを具体的に教えていただけたと思います。ただ、各校・各地域の環境も様々ですので、自校に応じた、今できることに優先順位をつけつつ、工夫していこうと思います。

玉置先生の講演を聴いてコロナ渦での学校の果たす役割を改めて考えることができた。令和の日本型学校教育の構築を目指すには、私自身もブラッシュアップしてGIGAスクールについて学んだり、先生方に助言できるような雑談を交わしたりできるようにしていきたい。なかなか頼りはならない教頭だが、いつも機嫌良く、先生方の意欲が上がるような存在になりたいと思った。

<志摩市教頭会から>

- ・講演の中で「依存する力」というキーワードが子どもたちに具体的にどのような力をつけていくのかを学校として明確にする上で大切であると感じました。
- ・『「わからない」ときに他者に依存する力をもつことは大切なこと。依存できる人は必ず自立できる。依存できずに孤立する人は最後まで孤立する。』という内容からも何でも自分で取り組むことがよいという考えに偏らないようにしていかなければいけないと感じました。
- ・働き方改革については、自身の職場のどこが多忙化の要因になっているのかを見極め、校務支援システムの有効活用を図っていく必要があると感じました。
- ・「子どものために長時間労働はやむなし」という考えを改めなければならないと

改めて思いました。教師が疲れていては子どものためにならないということを先生方に伝えたいと思います。

- ・他の国にない日本の学校が果たしてきた「学力保障」「関係保障」「健康保障」について、引き続き誇りを持って取り組んでいきたいと思いました。同時に、このことを学校だけで頑張ろうとせずに、家庭や社会の機能を求めながら、あらゆる資源を活用して取り組む必要性を感じました。
- ・最も心に残った言葉は「社会でやらないことは学校でもやらない」。私自身、そのことを大切なことと考えてきたので、背中を押してもらった気がしてうれしかったです。
- ・講義全体をとおして、学校は、社会に向かうための訓練の場であり、大人の世界の縮図であると改めて感じました。周りとのつながり、協働は何より大切だと思います。
- ・教頭はよく「職員室の担任」と表現されます。子どもたちへの指導と同じく、先生方をつなげ、仕事をしやすい環境を整えることが我々の一番の仕事であり、ひいては、子どもたちの成長につながっていくと感じました。
- ・志摩市は今年度から一人一台タブレットが導入されました。今回の講義でも、先進校の様子を見ることができて、とても参考になりました。本校では研修部長が率先して、職員を対象としたタブレットの講習会を実施しました。
- ・本校では、各授業で模索しながらではありますが、積極的にタブレットを利用しています。授業後には、職員同士で基本的な操作を教え合ったり、授業での活用について話し合ったりしています。与えられたから使うというのではなく、主体的に利用しようという雰囲気があります。私自身、ICTには疎いので、心強く思っています。
- ・講義にもあったようにブレーキをかけるのではなく、職員の主体的な活動を後押しできるように心がけていきたいと思います。
- ・新学習指導要領で目指すことを実現するために、教頭としてどのように職員室で取り組んでいくか、ヒントになることをたくさん教えていただいたように思います。ありがとうございました。

<伊賀市教頭会から>

- ・「実践研究は『子どものこのような姿がありました』というエピソードで語ること。」という言葉が印象に残っています。子どもたちのことを自由に語り合えるような職員室にしていきたいです。
- ・本校でも授業中、児童が困っている時に、TTの支援者が先回りして寄り添う姿が見られました。自主性、子ども同士をつなぐ、対話を作るという面を失うことのないということからも見直しを行いました。
- ・職員会議のペーパーレスですが、取り組んだこともありますが、その際には、紙ベースのものの方が見やすいし、最終的に印刷したものを配ることになる、パソコンがない職員も

いるということで、断念しました。しかし、働き方改革の面から校務の情報化を改めて推進しようと思います。

- ・学習指導要領から働き方改革まで、幅広い分野においてご示唆いただく内容でした。子どもの様子が目に浮かび、わかりやすいお話でした。
- ・「学んだことを広げていくことが大事」という言葉が印象に残っています。特に「主体的に取り組む態度」の評価について、これまでの「関心・意欲・態度」の評価ではないこと、気をつけておかないと勘違いしそうなので、職場の中でしっかり環流し、同僚性を発揮できるように努力したいです。

<名張市教頭会から>

- ・録画視聴研修としては、非常にわかりやすく、そして聴きやすい説明であった。
- ・それぞれの説明の中に、キーワードがあり、それが理解や納得するものであった。
- ・学校の管理職をされていたということで、その体験や経験談等共感できるものばかりであった。
- ・映像にあったように、確かにコロナ禍のなか、学校が果たしてきた役割が学力保障だけでなく健康保障、つながり保障など多くのことを担ってきたことが再確認されてきた。
- ・学力保障においても、主体的に自学する生徒の特徴は、学校生活が楽しいと感じている、様々な場面でコミュニケーションがとれる生徒ということであり、これはQ-U調査を活用しながら自己有用感を高め、他者を理解しながらコミュニケーション能力を高めることに取り組んでいる本校の取組に対して力強い援護をいただいたように感じた。名張市もGIGAスクール構想により1人1台タブレットが導入されているが、成功のカギは教職員が無理なく使うことである。映像では学び合う職員集団と言っておられたが、日常からの職場環境が大切であり、改めて教頭としての職員室経営を考える機会となった。

<紀北地区教頭会から>

『子どものために』と頑張ることで教師が疲弊していくのであれば、『子どものため』にはならない・・・頭では理解しているが・・・で思考停止するのではなく、より少ない労力で同等以上の成果が出せるアイデアを提示していくことが必要だと思った。

「依存すること」の大切さについて。

まさにその通りで、何でも自分1人でできるようになることが自立するということではなく、困った時に助けてくれる人がどれだけいるかが大切だと思います。社会に出るまでに、どれだけ仲間を創り、自分自身が周りから愛され、助けてもらえる人になることが大切だと考えます。

学校が提供してきた機能として、つながり保障機能があることを再確認できたことが大きく心の中に響きました。教頭として、教職員同士をつなぎ、子ども同士をつなぐことが大きな役割であることを大切にしていきたいと思います。

今も昔も大事にすることは同じであることを肝に銘じ、新しい機器や方法を選択しながら、自分自身の役割を果たしていきたいと考えています。

また、働き方改革についても、その必要性、どのように取り組むのか指針を示して頂き、ありがとうございました。

<紀南地区教頭会から>

○新学習指導要領の着実な実施や働き方改革について、具体的方策を分かりやすく教えていただいたので、大変参考になりました。勤務校で実践していきたいと思います。また、先生に紹介していただいた「機嫌よく仕事をしている人のそばにいと、自分も機嫌よく何かをした

くなる」という言葉が印象的でした。普段、校務で忙しく心にゆとりをなくしていることが多いので、職場の雰囲気づくりの為に上機嫌で仕事をするように心がけたいです。

○急激に社会の在り方が変化する「Society5の時代」の中で、子どもたちにどのような力をつけるかを明確にし、そのために必要なことを全職員で共有し、チームとなって取り組んでいくことが大切だと改めて思いました。

「主体的・対話的で深い学び」について、どのように学ぶかを自分のこれまでの児童とのかかわりや、授業の進め方について見直すきっかけになりました。また、子どもの姿を通じて、これからは職員といろいろな話をしていこうと思います。

○「主体的・対話的で深い学び」に関して

- ・主体的な学び＝指示されてやる学習ではない
- ・対話的な学び＝自分一人で完結する学習ではない（異質な集団での交流）
- ・深い学び＝「見方や考え方」を道具として使う学→今日の学習で一生覚えておくという事柄とてもイメージしやすく、よく理解できた。

○意味や意義が理解できると主体的に取り組めることには同感です。

コロナ禍で教育活動が制限されていますが、精選する機会と捉え、教育活動を見直し、働き方改革を推進しながら充実した教育活動が実践できるように取り組んでいきたいです。

以上です。今後の指針をいただいた有意義なお話をいただき、本当にありがとうございました。

三重県公立小中学校教頭会